（様式第19号）

平成２９年度　モニタリング結果報告書（竹林整備タイプ記載例）

１　活動の目標

|  |
| --- |
| 荒廃したマダケ林を適正な密度となるよう間伐し、竹林景観を守るとともに、竹の適切な利用が可能な竹林に誘導する。 |

２　活動実施前の標準地の状況（平成２９年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | マダケを主とし密生した竹林で、5ｍ×5ｍの調査区（標準地）の本数は36本で、直径5cm、14,400本／haと高密度であった。(詳細は別紙参照)千葉県の「特用林産物生産技術指針」に従い3年後の整備目標を10,000本／haとすると、標準地では25本となり、現状から16本＋再生竹の伐採が必要となる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（整備前） | 写真２調査区の現状写真２（整備前） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

３　活動１年目の標準地の状況（平成２９年度）

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | 1年目には、標準地の立竹数を30本とし、12,000本／haの密度となるよう整備した。 |
| 目標達成度 | 一年目の目標はおおむね達成できた。 |
| 次年度に向けた改善策 | マダケの再生数を実施計測して、伐採竹数を調整し最終的な立竹数が10,000本／haとなるよう、伐採本数を調整する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（１年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（１年目整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

４　活動２年目の標準地の状況（平成30年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | 2年目には、標準地の立竹数を25本とし、ヘクタール当たり10,000本／haの密度を達成した。 |
| 目標達成度 | ２年目の目標はおおむね達成できた |
| 次年度に向けた改善策 | 10,000本／haの密度におけるモウソウ竹の再生数を計測して、今後のこの本数を維持するための伐採竹数を調整し、立竹数が密度10,000本／haを維持するための、伐竹数を確定する。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（２年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（２年目の整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

５　活動３年目の標準地の状況（平成31年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況 | ３年目の再生竹○○本を確認後伐採し、標準地の立竹数25本を維持し、10,000本／haの密度を達成した。今後、この程度の密度管理を続けていきたい。 |
| 目標達成度 | 竹林整備としては、3年目で目標を達成した。 |
| 次年度に向けた改善策 | 大きな状況変化などがあれば適宜対応することとし、整備された竹林を維持したい。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 写真１調査区の現況写真１（３年目整備後） | 写真２調査区の現状写真２（３年目の整備後） | 真３モニタリング調査の実施写真等 |

６　活動４年目の標準地の状況（平成〇年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況を記載 |  |
| 目標達成度 |  |
| 次年度に向けた改善策 |  |

７　活動５年目の標準地の状況（平成〇年度）　　　　　　　　　　写真

|  |  |
| --- | --- |
| 標準地の状況を記載 |  |
| 目標達成度 |  |

（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。